

研究ノート

中華民國 80 年の社会

——『少年大頭春的生活週記』の台湾 社会事件編（その3）——

高橋明郎

1 はじめに

台湾のベストセラー作家張大春の小説『少年大頭春的生活週記』は、民國80年の学期に起こった様々な事件を引用している。従って、この小説の理解のためには、大小様々な事件の理解が不可欠である。

筆者は國家中央図書館所蔵の『聯合報』紙のマイクロフィルムをもとに内政編（その⁽¹⁾1）、社会事件編（その⁽²⁾1）、社会事件編（その⁽³⁾2）、人物編（その⁽⁴⁾4）を示し解説してきた。今回は更に社会事件について続ける。

2 保警関連事件

屏東一保警拳槍自殺。宜蘭縣一警察強暴並殺害民女。

80.9.8~80.9.14 《小恐竜出世》

- (1) 高橋明郎：中華民國80年の社会——『少年大頭春的生活週記』の台湾 内政編（その1）——香川大学経済論叢 73巻4号，2001年3月
- (2) 高橋明郎：中華民國80年の社会——『少年大頭春的生活週記』の台湾 社会事件編（その1）——香川大学経済論叢 74巻4号，2002年3月
- (3) 高橋明郎：中華民國80年の社会——『少年大頭春的生活週記』の台湾 社会事件編（その2）——香川大学経済論叢 76巻4号，2004年3月
- (4) 高橋明郎：中華民國80年の社会——『少年大頭春的生活週記』の台湾 人物編——香川大学経済論叢 75巻4号，2003年3月

2.1 陳柏陸事件

屏東は台湾南部にあり、広大な屏東縣の中心地で、空軍の基地が有る。高雄から東進してくる台鉄の屏東線は、ここで南に方向を換える。屏東線は最近屏東までが電化されたため、北部からの自強号も高雄止め以外はここまで直通し、また台南や嘉義方面への近郊電車も多くなって、交通が便利である。また三地門や霧台といった原住民が居住する山間部や、南部海岸地域への乗継地でもある。

小説では事件はここで起こったことになっている。ところが、この期間の報道を見ると、類似の事件は屏東で発生していない。この時期確かに警官の自殺事件は起きているが、それは屏東ではなく、それより北の南投縣でのものである。時期から見て、この事件が下敷きと考えられるので、ここでは南投の事件を解説する。

2.1.1 事件の経過

南投縣水里郷大觀發電廠に保（安警察第）二總隊から安全警備のため派遣されていた陳柏陸（21歳）が発電所入口詰所で倒れているのを、9月9日朝、交代の人員が発見した。7時20分、ポンという音を聞いた者がいるが、発電所内の音と思い確認しなかった。7時50分に交代の莊隊員が電廠交番に行ったところ、陳柏陸が血溜りの中に倒れており、38口径の拳銃が右足付近に落ちていた。莊隊員は直ちに曾志聰隊長に報告、現場を封鎖した。陳柏陸はこめかみに銃創が有り、既に死亡していた。そして検死の結果黄俊鳴検察官は自殺と断定した。

一方陳柏陸の父、陳振田がかけつけたが、保警一中隊に不満で、黄俊鳴検察官が検視官を連れて11時に現場に到着したものの検死作業に入れず、午後4時になってようやく検死作業は終了した。右こめかみは貫通銃創で、当直台のガラスも貫通していた。

検視官は交番の机上に紙とテープを発見した。紙には「我們已走得太遠，已沒有話題。孟庭葦不忍心讓你看見我流淚的眼，是不是到了分手的時間？（私たちはもう遠く離れてしまい話もない。孟庭葦よ、君に僕の涙を流す目を見せたくない。別れの時が来たのだろうか）」

第2段は、「高高的尉（蔚*原注）藍的天，是不是到了離別的秋天，孟庭葦看你看

月亮的臉，甜甜的。(非常に高い蒼い空，別れの秋が来たのだろうか。孟庭葦よ，君が月を眺める顔を見れば，とても甘い」

というもので，孟庭葦の名前が書かれていた。

最後の一段には，「你還記得我嗎（君はまだ僕を覚えているか）」とあり，「以前常⁽⁵⁾到台中聽你唱歌的呆呆（前にいつも台中まで君の歌を聴きに言っていた間抜け）」の署名が有った。

保警一中隊は，陳柏陸がこうした感情と仕事のプレッシャーから思い詰めたものと判断した。中隊は陳柏陸の勤務態度や私生活に問題があるとの認識で，このころ彼は勤務せずに正式な戒告を受けていたことから，ここ数日勤務状況の観察を強めていたという。同僚の警官は，陳柏陸の勤務が些かいい加減で，当直中はテープレコーダーを聴いてはいけないのに，この規定に反していつも孟庭葦の『你看你看月亮的臉』⁽⁶⁾を聴いていたと述べている。

一方父の陳振田は，今月 2 日に実家に電話をかけ，仕事のプレッシャーが大きいと話したこと，5 日に休みが回ってきたとき実家に戻ったが，その際も母親に同様の不満と，つまらないことで訓戒を受け，もうやめたいと漏らしていたことを明らかにした。その時母親はもうすこし我慢するよう勧めたという。父親は，彼が倒れていた時両足が当直台の手すりに引っかかっていた点から，他殺の疑いがあるかどうか調査を望んだが，警察は他殺の可能性を否定した。

陳柏陸は南投縣竹山鎮出身。警員班 125 期卒で，苗栗縣，台中市で勤務の後，郷里に近い水里に転勤し，保警一中隊に所属した。水里は明潭水庫に近く，窯業で栄えた町で，西部幹線二水からの集集線沿いにあり，日月潭へのルートの入口にも当たり，観光客も多い土地である。

2.1.2 孟庭葦

件の孟庭葦は当時の新人アイドル歌手である。本名を陳秀玫といい，彰化の

(5) この後段は「亜亜」の名前が入っていたため，この日の『聯合報』は「寫給另一位在台中歌廳唱歌的亜亜」と報じているが，「亜亜」は孟庭葦の小名で，現在でも彼女のファンはこの呼び方を使うことがある。

(6) 報道では『月亮』

人、1969年12月22日生まれ。デビュー前は台中市民歌餐廳で歌っていたが、78年（1989）スズキのバイクのコマーシャルに出演、事件の前年79年（1990）に『和乾餅説話的的女孩』という個人アルバムを出して歌謡界にデビューした。そして事件の起こった9月は、3枚目の個人アルバム『你看你看月亮的臉』を出すという時期であった。

このため所属するレコード会社「上格」には、事件後ファンの問い合わせが相次いだ。このとき彼女は中華テレビとともに金門島へ軍の慰問に行っていたが⁽⁷⁾、ニュースで事件を知り、急ぎ会社へ電話し台北に戻り会社に調査を頼んだ。

この時孟庭葦は、一ファンである陳柏陸のことを知らないと述べ、また会社も、ファン名簿をチェックしたが陳柏陸の名前は無かったと答えている。

幸いにもこの事件は孟庭葦のキャリアに影響を及ぼさなかった。この事件で更に名前が広まった所為かどうかは定かでないが、この年発売された『你看你看月亮的臉』は35万枚の大ヒットとなり、「月亮公主」という名で知られるようになった。またこの年ドラマ「最後の小火車」の主演を務め評価を高めた。

以後も歌手としてのキャリアを積み、82年（1993）頃から大陸のテレビにも出演、84年（1995）2月には、さしずめ中国の「紅白歌合戦」とも言うべき、中国中央電視台の「除夕聯歡晚会」に台湾代表として出演、大陸で女性歌手売上げ第一位となった。その後もアジア各地で高い人気を維持している。

一方仏教の信仰心も厚く、10年近く肉を取らない精進を続けていたことでも知られ、いずれ出家をするとまで言っていたが、今年2004年7月、高校の先輩張志鵬と結婚（還俗とまで報じられた）した。

2.2 王俊杰事件

2.2.1 事件の経過

王俊杰は保一總隊から宜縣警察局三星分局大洲派出所に応援に派遣されていた警官である。出身は台南で、当時21歳であった。民國79年11月大洲派出所で実習し、

(7) 彼女の歌は兵士たちの人気が高く「軍中情人」と称されたこともある。

翌 80 年 5 月正式な警官となった。

被害者となった游素春は新光人壽保險公司の宜分公司冬山營業處組長で、当時 31 歳であった。王俊杰は 8 月に彼女を通して 120 万元 20 年満期の「吉祥如意・総合給付・疾病」⁽⁸⁾の 3 種保険に加入した。しかし 17,905 元の保険料が 9 月になっても支払われず、游素春が何度も催促していた。9 月 9 日夜には、游素春は夫の陳聰喜とともに派出所まで集金に行き、王俊杰は 10 日午前 9 時に省立羅東商職の玄関で渡す約束をした。10 日午前游素春は集金に出かけたまま戻らなかった。このため夫の陳聰喜は派出所に二度電話し、その後足を運んで王俊杰を問いただしたが、王俊杰は午前中に彼女に金を払ったと答えた。友人たちは交通事故に遭ったのではと数十人で連夜の搜索をし、警察にも届け出て協力を求めている。

游素春の親戚の一人がアマチュア無線をやっており（香腸族⁽⁹⁾）で、仲間と彼女の乗っていたバイクを捜していたが、11 日午前 1 時、バイクが羅東鎮維陽路に乗り捨てられているとの連絡があり、陳聰喜が急行して妻のものと確認した。そのバイクの座席には、その日陳聰喜に届ける筈の弁当 2 個がそのままになっていた。

その 3 階が王俊杰の住居だったため、家族は大洲派出所に電話し、王俊杰に部屋の鍵を開け中を見せるよう求めたが、王俊杰はこれを拒否した。そこで 3 時 30 分、家族らは、この住居所轄の成功派出所と鍵屋（鎖匠）の協力を得て、王俊杰の部屋に入った。そこに游素春の死体が、紙箱に入れられてあった。紙箱は客間に有り、寝室と客間は血痕だらけのひどい有様だった。

20 坪余りという王俊杰の部屋は、もともとは警官夫婦が住んでいたが、夫が交通事故で入院し、妻はその間花蓮の実家に戻ったため、今月から王俊杰に又貸していた

(8) 新光人壽の「吉祥如意」は終身型生命保険であった。予定運用利率は 6% で、生前給付や増額が可能であった。この保険は事件の 5 ヶ月前の 80 年（1991）4 月に発売されたばかりの新製品で、事件の時期游素春のような外交員が、この保険の販売に力を入れていたことは容易に想像できる。なお、この保険製品は 87 年（1998）末で発売が中止となっている。

(9) 香腸族は無免許で無線を楽しむ人たちのことである。そもそも正規のアマチュア無線をする「HAM」を、中国語でハムを意味する「火腿」と呼んでいたことから、無免許で無線をする人々を「香腸（ソーセージのようなもので、よく屋台などでも売られている）」と称したものである。なお、この情報は、本学の台湾人研究生黄郁婷さんに教えていただいた。

ものであった。警察は直ちに現場を封鎖するとともに、大洲派出所に王俊杰を逮捕に向かった。王俊杰はこの時小さな仏像を胸に寝ていたが、逮捕に来た警官に殺害を認めた。

8時30分宜蘭地検の黄惠敏検事と、検死に当たる董錫榮が到着して検死が開始された。検死後、検事は遺族に遺体を氷で保存するよう指示した。発見当時の屍体の状況は次の通りであった。屍体は綿布団にくるまれ、顔は上向きで、足は折られて体と直角に曲げられていた。紙箱が小さすぎて、足は箱に収まらずに出たままで、左手は背中に振りあげられ、腕には手錠の跡があった。右手は振られて折れ、傷痕が多数あって、相当抵抗したと見られた。胸には肺に達する刺創があり、後頭部は煉瓦で殴られ裂けていた。血は床に広がり、屍体下半身には男性の分泌液が見られた。

王俊杰は彼女と関係を持ったあと脅されて犯行に及んだと供述したが、家族は王俊杰が、集金に来ることになっていた游素春を計画的に乱暴し、犯行の露見を恐れて殺害し、屍体の隠滅を図ったと主張した。しかし、王俊杰は逮捕後、「半推半就（どちらからともなく）」関係を結んだあと、彼に責任を取るよう求め、拒否すれば上司に告発すると言われかっとなって殺害した、と供述した。

現在でもそうだが、台湾では犯人が警察に拘束される前にマスコミの取材に遭うことが少なくない。交通事故あるいは暴力事件の現場では無論のこと、逮捕の場でも取材陣に答えた犯人の声がそのまま報道されてしまう。この場合も、王俊杰の主張はそうした形で表に出たものである。⁽¹⁰⁾

(10) 『聯合報』に掲載された陳嘉信記者のインタビューは次の通り。

記者：どうして死んだ游素春と知り合ったのですか。彼女はどうやってあなたの住居に来たのですか

王：人の紹介で新光人壽の「吉祥如意」保険に入ることになり、初めて保険料徴収をする游素春と知り合いました。今月9日夜、游素春は夫と一緒に派出所に集金に来ました。現金が足りなかったので、10日午前羅東商業学校の校門付近で会って、一緒に私が借りている羅東の維陽路の部屋に行き、保険の改定をすることにしました。年2回払いを月払いにするため、游素春は私の所に来たのです。

記者：集金と保険の契約改定というのなら、どうしてあなたは彼女に乱暴し殺すようなことになったのですか？

王：游素春はとても魅力的で私の関心をそそったので、口でからかい、辱めました。游素春は抵抗したけれど、強くはなかった。だから、彼女と同意のもと関係を持ったのです。

游素春の会社、新光人壽では10日に彼女がお得意さんにしていただ顧客の資料を調査、彼女が王俊杰を警戒していたのを発見した。游素春が作成した顧客カードは8月12日に作られたもので、「初めて会う。高雄出身（『聯合報』の原注：実際は台南出身）、当地勤務。保険未加入。かなり事情がのみこめていないので、考えねばならない」と記載されていた。14、15日は「面会せず」とあった。

陳聰喜の双子の兄陳振義の述べるところでは、游素春の夫陳聰喜は、11日檢察官立会いの検証の場で、妻の惨死体を見て泣き崩れ、その場で昏倒、帰宅後傷心のあまり数回卒倒した。

家族は10日に游素春の持っていた鞆を現場で確認したが、犯人が支払ったという1万7千元以上の保険料は見つからず、所持していた1万5千元も紛失している。

一方台南縣新營の王俊杰の両親は、知らせをなかなか信じなかった。王俊杰は次男で、兄と弟、妹が一人ずついた。父は新聞取り次ぎ店をやっており、母親は病院の賄いで働いていた。近所の評判では、王俊杰は内向的で、家に帰っても近所の人とはほとんど話さず、近所の人と会ってもまず挨拶しなかったという。

2.2.2 事後処理

当局も度重なる不祥事に、処分を発表した。警察不祥事への風当たりへの対応として定められた「端正警察風紀実施計画」の規定により、上司3階級の連帯責任を問うたのである。具体的には、自ら処分を願い出ている謝銀黨便宜蘭縣警察局長を「大過」⁽¹¹⁾、

(原注：黄惠敏検事は検死で、両手が捩られ腕には手錠の痕跡があって、無理やり乱暴されたのではと考えている。)

記者：ではどうして殺さねばならなかったんですか。

王：関係を持った後で、游素春は私にこのこと責任を取り、今後も付き合うよう求めました。私は、彼女はもう31歳で夫も子供もあるのだから、こんな不正常な関係は続けられないと言ったので、言い争いになりました。游素春は、この件を私の上司に訴え馘にしてやると言うので、私もカッとなって煉瓦とナイフで凶行に及びました。

記者：どうして彼女の屍体を紙箱に入れたのですか。

王：紙箱はもともと家にあったもので、買って来たわけではありません。屍体を紙箱に詰めたのは捨てる準備でした。ただ運び出さぬうちに見つかってしまいました。

(11) 「記大過」は公的に処罰が記録されるもので「嚴重注意」くらいに相当するであろう。これは、例えば学校の生徒指導上でも、指導要録に「大過」が記録される。

葉永村三星分局長を同じく「大過」とし、新竹局警察局局长員に降格、黄正坤大洲派出所主管も「大過」とした上、主管職を解いた。これは類を見ないほど速い処置で、警察当局の深刻な危機感が窺える。また人事委員会（人評会）も開かれ、王俊杰を「大過」2回として免職を決めた。

警察責任者たる警政署長はこの時も、陳範成事件（注(2)論文参照）の時と同じ莊亨岱で、直ちに于春豔台湾省警務處長と黄丁燦督察（監察）室長を緊急招集、電話で謝銀黨から事情を聴き、王俊杰を検察に送って取り調べるよう指示した。その場で電話を代わった黄丁燦は劉松本督察を宜蘭に派遣し、動機と事件全容を調べるよう命じた。この劉松本からの初期捜査報告を受けた莊亨岱は警政署内関係部署の責任者を集めて緊急会議を開き、王俊杰の所属する部署の上司の処分を決めた。

処分の根拠となった「端正警察風紀実施計画」とは、10年以上前の民國79年（1980）7月1日公布されたものである。このうち「連帯責任」規定は、所属警官について常日ごろ犯罪予防、教育、十分な査察がなされているべきであるから、もし部下が犯罪を犯せば連帯責任が問われることを示している。警官が免職に当たるような不祥事を起こした場合、直属の上司は「大過」1回、その上の上司は「大過」2回分が記録される。またそれが警察全体の威信や名誉を傷つけると見られた場合は、更にもう一段上の上司までが処罰される、3階級の上司が処罰された今回の事件が、これに該当する。

面子丸潰れの莊亨岱は、各役職者に、このような事件を再び起こして警察のイメージ低下を防ぐため、以後警官の風紀を徹底的に正すよう訓示した。

2.3 台湾の治安

同じ時期、警官の事件は続発している。例えば9月5日朝、保安警察第2総隊第4大隊第5中隊蘇澳分隊所属の陳朝全が自身の拳銃で顔を打って交番内で死亡している。分隊は自殺と考えたが、家族は他殺を主張、検察が調査に入った。

死亡した陳朝全（24歳、蘇澳鎮南正里）は警察学校118期卒業生である。5日、蘇澳港の國光トンネル北口の6号交番で、0時～4時の夜間勤務についていた。3時55分、交代の高文光は、座っていた陳朝全を発見、床が血の海だったため林政君保

二蘇分隊長に報告した。陳朝全は既に死亡しており、携帯していた 38 口径拳銃が落ちており、弾丸は 1 発だけ発射されていた。

蘇澳は宜蘭より更に南方にあり、港からの物資運輸のため台鉄の宜蘭線が港方向に突っ込む形で引かれている。北廻線開通前は、ここが台北方面からの鉄道の終点で、冷泉のあることでも知られている。この地区も宜蘭地検の管轄であったため、この事件も、王俊杰事件と同じ黄惠敏検事と董錫榮検死官のコンビが捜査した。銃弾は陳朝全の左頬から頭部を貫通して交番の屋根に達しており、特に争った形跡はなく、また銃弾は陳朝全の拳銃から発射されたものであることが分かった。

事件発生後、郭顯莊保二第 4 大隊長、林敏昇第 5 中隊長と汪義益監察官も現場に急いだ。林敏昇中隊長は、陳朝全は優れた警官で、母親の体調が良くないのをいつも気づかっていたこと、長年付き合っているガールフレンドがいることを記憶していた。林政君分隊長は、陳朝全は生前自殺するような素振りとは決して見せておらず、5 日の 1 時 40 分にも巡察途中で交番で彼と話しているが、特に変わったところはなかった。

蘇澳分隊は 6 号交番と 2 キロ離れ、間に國光トンネルがあるため、銃声は聞こえなかった。蘇澳警分局は巡邏途上、2 時頃に陳朝全を目撃しており、蘇澳港派出所で 3 時頃銃声を聴いた者がいた、発砲は 3 時以後と見られた。

父の陳宗榮と兄の陳朝欣は、自殺という見方に、動機も遺書もないことから反対、またボタンが飛び、オイル入れ付近に乱れた足跡があることから、誰かにボタンを引きちぎられたのではと考えた。陳父子によれば、二日前の夜、陳朝全は家族と楽しげに談笑し 11 時頃に勤務のため家を出た。陳朝全は以前蘇澳油庫内の駐車場で仲間と働いたことがあり、これで恨みを買った可能性があるとも述べた。

陳柏陸事件が報じられた 9 月 10 日の紙面では、その脇に基隆の警官の不祥事も報じられている。基隆市警察局中山路派出所警官許良徳（26 歳）は、9 月 8 日朝 4 時から 8 時の当直の時間の間に抜け出した。警官の一人がトイレに立った際、許良徳の不在を確認、調べたところピストル 1 丁と銃弾 11 発が持ち去られていた。許良徳は 7 日晚、基隆の二愛路で、十数年付き合っている女性が他の男と親密にしていたのを見て問いただしたところ、逆に男とその仲間に乱暴された。そこで翌日勤務時間に抜け出し台中のホテルで女性と談判に及んだ。基隆の署員が台中に向かったところ、既

に逃亡した後だったが、親友の説得で兄を通して拳銃を提出、間もなく親戚の家で逮捕された。警察局は彼に「大過」2回を記録した上停職とし、省警務処に免職に相当するか判断を委ねた。

既に『社会事件編・1』⁽²⁾で触れているように、台湾の治安は、住民に危機感を抱かせる状態にあった。解戒以後の自由の増大と引換に、警備の緩みも進行した。

当時行政院長（首相）だった郝柏村は、前年の79年（1980）9月8日、全国治安会議で現状総括と指示をしている。⁽¹²⁾

この中で、特に警察の風紀に言及し、批判が多いことを認め、管轄区域のうち特に治安が問題になるところは優秀な人員を配することを提案している。治安対策として打ち出した警勤区の設立が、住民監視に使われるのではという警戒に対して、政府は絶対にこれを民衆の思想・行動の制限に用いないと明言した。

加えて検察に積極的な捜査を求めると同時に、政府が検察関係者の安全について責任を負うと表明した。そして全国民による社会治安の啓発活動を提案している。

当時の状況について81年（1991）雑誌『九十年代』の取材に答え、治安の悪化に加え、投機活動の激化があり、全国各所に金銭遊戯が見られ、それらが社会を不安定にさせていたと述べている。彼自身は、こうした問題に直ちに対応したと考えていたようだ。⁽¹³⁾

最近も同様の傾向は持続している。特にここ数年は経済の不振と失業率の上昇も背景となって犯罪数が増加しており、それに伴い国民の安全に対する不安も増加していることが各種の世論調査でもしばしば伝えられる。また経済犯罪の伸びもある。

こうしたことは、近年国民党側に肩入れすることが顕著な大陸に、民進党政権を無能と攻撃させる切っ掛けを与えている。⁽¹⁴⁾

(12) 「對全國治安會議分組討論總結報告之支持：第6，第7項」郝柏村『不懼』五四書房，1995，台北所収

(13) 郝柏村「走向中国人的世紀」92.9.15，(12)同書 所収

(14) 例えば

「面对各类犯罪活动，一位台北市网民发表评论指出，“治安败坏是在当局执政二年半到达高峰，正因为执政无能，财经败坏，人民高度失业，百姓生活民不聊生，所谓‘饥寒起盗心’”，…（朱显龙：2002年台湾社会综述「台湾2002」全国台湾研究会编，九州出版社，北京，2003.6 294页）」

3 王俊傑殺人事件

王俊傑命案宣布偵破, 反共義士卓長仁・姜洪軍和施小寧担承綁架勒贖殺人棄屍。

81. 3. 8~81. 3. 14 《形象很重要》

2.2 の犯人が王俊傑で紛らわしいのだが、こちらは8月の、台北市國泰醫院の王欲明副院長の子、王俊傑が殺害された事件である。

3.1 事件経過

3月7日、警察の合同捜査本部は「反共義士」施小寧・姜洪軍の2名を取り調べたところ、二人は王俊傑といざこざがあり鈍器で王俊傑を殴って殺害したことを認めた。二人は卓長仁との対質を希望したが、取調官の勧めで調書を取ることに同意した。

桃園で行われた取り調べは午後開始され、午後3時に姜洪軍が初めに自白を始めたが、更に追求すると警戒し、関与はしたが（涉案）手は下して（作案）いない、もしこのまま調書を作るなら卓長仁と施小寧に会ってからにする、そうでなければ調書を認めないと言い出した。一方施小寧も3人の面会を求めたが、警察は既に王俊傑殺害後、施小寧の身体に傷が残っているのを確認しているため、更に追求したところ、夜9時になってようやく関与を認めた。

供述の中身は、80年8月16日夜、淡水にある卓長仁の家にゆくと、卓長仁が台北市景美区の福興路の3千坪の土地と5万元の小切手を巡ってもめているところで、気が短い二人は殴り合いを始めた。姜洪軍らは、卓長仁が王俊傑に「思い知らせる（教訓）」のを手伝おうとした所、王俊傑が猛烈に抵抗したため鈍器を取って王俊傑を殴り殺してしまった。慌てた3人は王俊傑の屍体とバンを8月20日、桃園市中正路に棄てた、というものである。

以上が3月8日に報道された概要である。

翌9日、更に8日の取り調べ状況が報ぜられた。その結果、卓長仁ら3人は王俊傑を殴り、倒れた王俊傑がなお抵抗しようとするので殺害を決意、施小寧が王俊傑の頭

を押さえ、卓長仁が足を押さえている所を姜洪軍が王俊傑の胸部を強打して殺害したという状況が明らかになった。姜洪軍の自供では、8月16日夜卓長仁が彼と施小寧に電話をかけてきた。卓長仁は大陸のアジトが中国の公安当局に調べられたことでむしゃくしゃしているので、施小寧らと酒を飲んで憂さ晴らししようということだった。二人は卓長仁の淡水の別荘に行く前は、卓長仁が既に土地売買の仲介の件で王俊傑と面会の約束をしていることを知らなかったと供述している。ともかく4人は客間でお喋りをした。そのうち王俊傑と卓長仁は土地のことで諍いになり殴り合いになった。

姜洪軍は卓長仁・王俊傑の衝突を見て、台所へ酒を取りに行き、しばらくすると卓長仁が「来て手伝え」と怒鳴るので行ってみると、卓長仁と施小寧が二人で王俊傑を殴っているところだった。そこで二人に加勢して殴った、と供述した。しかし、ここには食い違いがあり、施小寧は、卓長仁と二人で殴っているうち姜洪軍が鈍器を持ち出してきて王俊傑の後頭部を殴り、王俊傑は血を流して倒れたという。ともかく、3人は倒れた王俊傑がなお抵抗しようとしたので3人で王俊傑を締め上げ、二人掛かりでからだを押さえて、姜洪軍が王俊傑の胸部を打ち、殺した。

3人はその日のうちに屍体を始末することにし、警察や家人に疑われないよう「石医師」の名前で王俊傑家に脅迫電話をかけ5千萬元を要求した。そして、3人で王俊傑の体を縛り、王俊傑のバンに積込み桃園縣中正路に棄てた。卓長仁は自分の赤褐色のトヨタのバンを運転し、姜洪軍が王俊傑の車を運転し高速道路経由で桃園に向かい、遺棄後は卓長仁の車で台北に戻ったものらしい。

ところが、事件はやがて違った展開を見せる。その後の取り調べをもとに、蕭順水桃園地検検察長は、卓長仁は王俊傑家が豊かなのを見て誘拐を計画したが王俊傑が彼らの顔を見知ったため殺害したものと発表した。つまり、この事件は偶然に起こったのではなく、経済状況が良くなかった3人が誘拐して身代金を取ろうとしたが、王俊傑が彼らを見知っていたため先に殺害してから身代金要求の電話をしたものと分かった。

9日に卓長仁の取り調べが始まった。追求の結果、卓長仁と王俊傑は台北市景美区の土地と、5萬元の小切手の件でいざこざになり、姜洪軍・施小寧の二人を仲間にし

て殺害、土地仲介の相談などは王俊傑をおびきだすための口実であったことが判明した。

8日深夜から9日朝取り調べで、姜洪軍は良心が目覚めたので真実を話したいと称して、卓長仁が王俊傑の誘拐を計画したと供述、これをもとに施小寧を取り調べると、施小寧も同様の供述をした。卓長仁は自分の先物取引（期貨）会社の経営が思わしくなく多くの負債を抱え、淡水の別荘も差し押さえられたので姜洪軍ら二人に誘拐を持ちかけた。そして3人は誘拐の対象を捜した。事件の一月前に当たる80年7月、卓長仁は王俊傑の父が國泰病院の副院長で金持ちなので、王俊傑を誘拐すれば巨額の身代金を取れると提案した。当初姜洪軍らは反対したが、卓長仁は台北市興復路の土地の契約金200万元を翁という地主に没収され、いよいよ行き詰まったため、二人に重ねて王俊傑の誘拐を提案した。

卓長仁はまず土地の仲介の件で王俊傑とつながりを持ち、1千万の手付金で王俊傑の関心を引いた。その後8月16日夜、土地の資料を持ってこさせる段取りをした。当日夜10時40分頃、王俊傑が卓長仁宅に到着、残り二人も前後して到着した。凶行の際卓長仁と施小寧が王俊傑を押さえ、姜洪軍が護身用のスプリング棒で王俊傑の後頭部を強打、王俊傑は地に倒れた。施小寧は再度王俊傑を抱え起こし、王俊傑の頸部を押さえ、卓長仁が足を押さえた所で姜洪軍が胸部を強打した。3人は王俊傑が弱つたのを見て麻縄で縛り上げようとしたところ、王俊傑が力を振り絞って抵抗しようとした。卓長仁らはこれを見て、王俊傑が逃げ出し通報するのではと、慌ててトイレットペーパーを濡らして鼻に押し込み窒息死させた。その後卓長仁が死体遺棄を提案、卓長仁と施小寧は車で死体を桃園に棄てに行き、姜洪軍は王俊傑の車で後についた。

翌日姜洪軍は「石醫師」と偽名を使い王俊傑家に電話し、5千万元を要求し、警察に通報しないように言った。しかし逆探知を恐れて二度と電話しなかった。その後3人は口裏を合わせる相談をした。

卓長仁の取り調べは9日午後3時、身柄を桃園地検に移し、邱鎮北桃園地検検事により、残り二人の供述を示しながら行われた。二人の自白調書をもとに、王俊傑のロレックス（勞力士）腕時計、金のブレスレット、ライター等を捜索して発見、自白の信憑性を確認した上で卓長仁の取り調べに入ったものである。

一方警察の捜査本部は9日検察官指揮のもと台北市安和路の姜洪軍の自宅を捜索し麻縄を発見した。これは王俊傑の屍体を縛っていたものと類似のものだが、広く市販されているもので確定には至らなかった。しかし同日、王俊傑が残したライター1個、凶器の護身用スプリング棒を重要な物証と考え捜索を続けた。

一方、卓長仁の妻、高東萍の関与も疑われた。この妻とは、台湾に来てから結婚したものである。二人の自供では、殺害時、高は2階にいて直接殺害に関与していないということであったが、殺害時に現場にいたので、事情を知っていた可能性があるとして取り調べが行われた。しかしほどなく嫌疑を解かれている。

3.2 反共義士とその後

「反共義士」とは、中華人民共和国から中華民国に亡命した人々である。特に民國43年(1955)1月23日、朝鮮戦争で南側の捕虜になった1万4千名を超える中華人民共和国兵士が帰国せず台湾に来た時に、最も多く反共義士が生まれた。彼らが台湾に来た時は、台北で祝賀パレードが行われ、併せて台湾ではこの1月23日を「自由日」として記念した⁽¹⁵⁾。その後もミグ19戦闘機ごと台湾に亡命してきた者など様々な「反共義士」が生まれた。

事件に関与した3人は、「反共義士」という同じ身分であったことからこれまでも連絡を取り合っていた。ただし卓長仁は、この大量亡命の時の義士ではない。80年代中国民航をハイジャックして大陸から韓国経由で台湾に逃れてきたのである。このため來台当時大きな話題となり、彼の名は人々に深く記憶されていた。それだけにこの事件は大きな衝撃を与えたのである。

中華民国政府は、こうした投降、亡命を大陸政府攻撃の絶好の話題と考え、更なる亡命を促すため、反共義士には賞金を支給し、仕事を紹介していた。ただし、着実に運用すれば暮らしていけるくらいの額であるため、一部の者は卓長仁のように不慣れな投資(大陸では当時ほとんど経験しようがなかったことである)に走って資金を増やそうとし、逆に巨額の負債を抱えてしまった⁽¹⁶⁾。大陸と強い緊張状態にあった時代の

(15) 2004年が50年目に当たるため、2003年末、反共義士たちの団体は祝賀事業をし、2004年1月23日、韓国の捕虜収容所などへ回顧ツアーに出かけた。

産物である「反共義士」の名誉は、大陸との交流が盛んになり、「三通」が言われる現在では多くの人々から忘れ去られている。

ところで、結局この事件は桃園地方法院（地裁）、台湾高等法院（高裁）と四度の再審でいずれも共同殺人罪が認定された。その後 89 年（2000）最高法院（最高裁）は原判決を支持して上告を棄却、身代金掠取には失敗したものの、犯行が凶悪で社会に与えた影響も大きいとして、卓長仁と姜洪軍の二人を死刑、施小寧を無期懲役と決した。施小寧が減刑されているのは、犯行に協力しただけで、脅迫電話については反対したことが考慮されたものである。

これに対し高東萍は、取り調べがタオルで手を縛り吊し、冬に裸にして水をかける⁽¹⁷⁾などの拷問によって行われたとし、判決書を入手次第特別抗告（非常上訴）すると表明した。

しかし、結局これは認められず、90 年（2001）8 月死刑が執行された。銃殺前に卓長仁は「中華民國萬歳」と叫んだと報じられた。

（接）

(16) 例えば 66 年（1977）7 月 7 日台南にミグ 19 を操縦して亡命した范園焱は 3,200 万元の賞金を得て、そのまま台湾の空軍で働いた。一方卓長仁家では犯行当時 6,000 万元の負債があったとされる。

(17) この方式を、高東萍が記者会見で「中国でも使わないような手口」（「連在大陸都相当罕见」）と表現しているのは何とも皮肉なことである。